

第1学年 道徳学習指導案

太田小学校1年 男子3名 女子4名 計7名

授業者 武岡澄代

1 総合単元名 つながりあうところ

2 総合単元設定の理由

明るく活発で個性的な7名の子どもたち。小学生になった喜びを胸に、太田小の一員になろうとがんばっている。近年、家族間や地域との関わり希薄さによる問題点が叫ばれているが、ありがたいことに本校は一年を通して地域の人たちとの交流や行事が盛んで、地域ぐるみで子どもを見守ってくれている。教科学習で一緒に活動することの多い2年生をはじめ、6年生には読み聞かせをしてもらうなど、上学年の人からお世話をしてもらって大切にされている。そんな家族的な雰囲気の中で、子どもたちはのびのびと学校生活を楽しんでいる。自分の意見をはっきりと主張したり大勢の前で堂々と発表したりすることもできるようになって、心身ともに成長している。

しかし、その反面7名という少人数であるが故に、人間関係が幼少時より固定化されがちである。前後する学年の人数も限られているため、人との関わりも少ない。一見仲よく遊んでいるように見えても、めいめいがわがままを通そうとしたり、世話をしてもらうのは当たり前でも人のためにはなかなか行動できなかつたりといった面ももっている。

子どもたちのトラブルの多くは、相手を思いやり少しがまんすることで済むことがほとんどである。人間関係を円滑にするには、互いに相手を尊重し、思いやり助け合いながら生活する必要がある。困っているときに親切にしてもらおうと誰もがうれしくなるし、その気持ちは相手にも伝わり、両者をよい関係にさせるのである。本校のアンケートによると、身に付けさせたい道徳性の一つとして、保護者からは「思いやりのある親切な言動を進んでする子になってほしい」という願いを、また子どもたち自身も「友達と仲よく協力して学習したい」というめあてを心の内にもっていることが分かった。

基本的な生活習慣や学校生活のきまりを身に付けながら社会的なつながりを広げようとするこの時期だからこそ、思いやりの心・助け合いの心をもって一層つながりを強く大きなものにしてほしいと思う。誰とでも仲よく、問題が起こったときは力を合わせて解決できる子どもに育ててほしいと願って、本総合単元「つながりあうところ」を設定した。

3 総合単元の目標

誰にでも温かい心で接し、思いやりの気持ちをもって友達と仲よく助け合おうとする態度を養う。

4 単元構成について

少人数だからこそ力を合わせて生活させたいという願いから、「なかよくがんばる」を合い言葉に学校生活を送っている。まだまだ自分本位な部分が目立つ1年生は、毎日の生活そのものが道徳学習であり、道徳の時間のほかにも教科の学習・学級活動・行事・常時の活動などの場面においても、めざす道徳目標に少しでも近づけるよう日々取り組んでいる。

第1次「おもいやるころ」では、内容項目2-(2)思いやり・親切をテーマに、資料「ドラえもん」

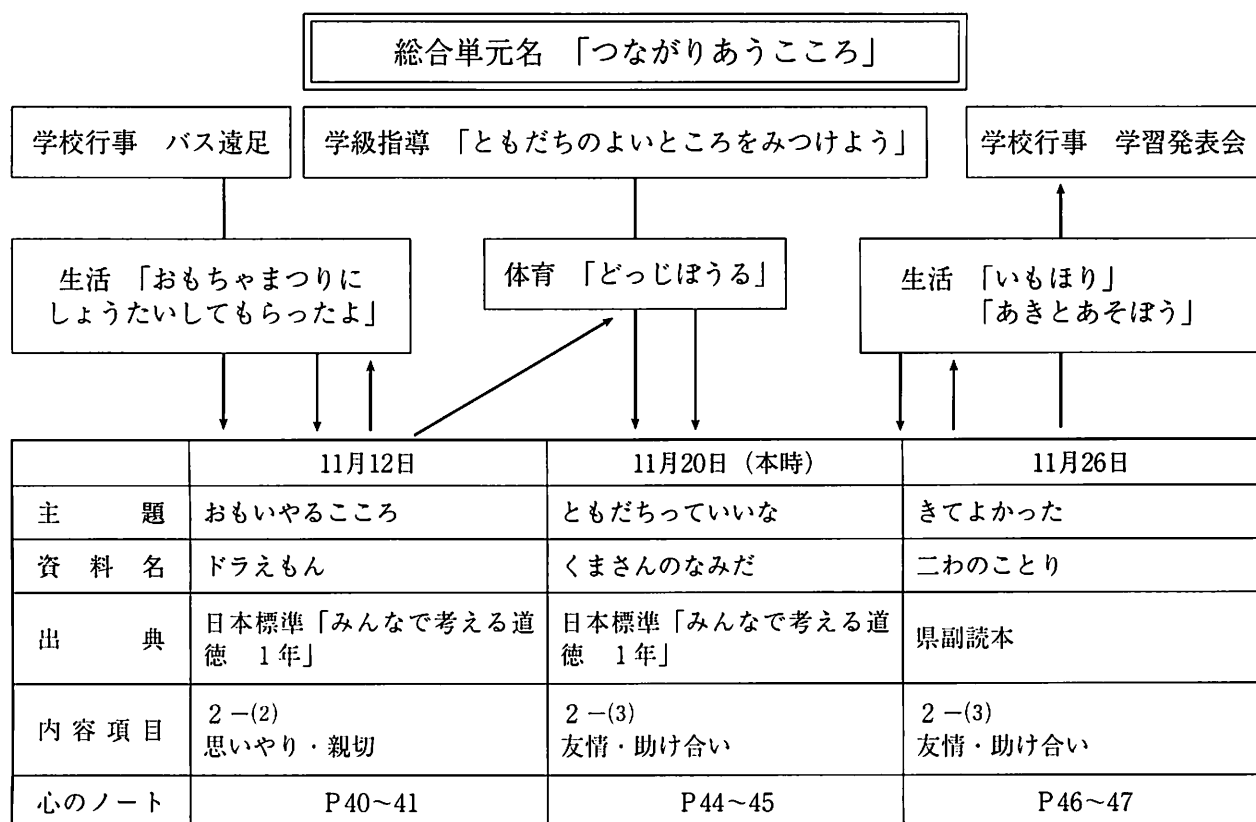
を使って学習する。実際に生活の中でありそうなお話で、雨に打たれる子犬を見てのび太君がとった行動から、身近にいる人に対する思いやりや心の温かさについて指導したい。

第2次「ともだちっていいな」(本時)では、資料「くまさんのなみだ」を扱う。内容項目2-(3)友情・助け合いがテーマである。動物の森ならぬ「太田小学校」という集団の中で、みんなと一緒に楽しく生活していくために、みんなで助け合い励まし合いながら友達と仲よくしていこうという気持ちを育てたい。

第3次の「きてよかった」は、第2次と同じ内容項目であるが、今まで学習してきたことをもっと深めたい。資料「二わのことり」から、友達を心から思いやり、今までより一層友達を大切にしようとする態度を育てたい。

2学期は行事や異学年と関わる活動を多く計画している。バス遠足や学習発表会・生活科の学習(いもほり・おもちゃまつりにしようたいしてもらったよ)・ニコニコなかよし班活動(異学年集団活動)では、2年生をはじめ、上学年の人や地域の人たちとふれあうことになる。自主性を発揮しながらも、譲り合い、協力して楽しく活動できるようにさせたい。

また、本校では「ニコニコカード」「ニコニコの木」によって、友達のよいところみつげ運動を展開している。周りの人たちのよさや優しさに気付かせ、人間関係をより円滑なものにしていきたい。そして自分も、誰に対しても優しく接することのできる人間になりたいと願う子どもや、行動できる子どもに育てたい。



〈常時活動〉

- ・朝の読書タイム(週に一度は6年生による読み聞かせ) ・朝の歌
- ・朝のスピーチ・みんなに伝えたいこと(朝・帰りの会)
- ・「ニコニコカード」「ニコニコの木」(友達のよいところみつげ運動)
- ・学年便り「ひまわり」(家庭との連携) ・ニコニコなかよし班活動

5 本時の学習

(1) 主 題 名 ともだちっていいな

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2-(3)	友達と仲よくし、助け合う。
-------	---------------

入学以来、子どもたちは、学校生活を通して自分の思ったことやしたいことを主張できるようになってきた。それとともに周りの人たちのことを考えず自分勝手に行動してしまうことも多くなりがちである。

子どもたちが集団生活のルールを学んだり、自分も集団のなかで気持ちよく生活したりするためには、友達の存在が欠かせない。友達と一緒に生活するには、がまんすることや、互いに認め合うことが必要になるであろう。そこに信頼関係が生まれ、友情が成り立つのである。自分さえよければいいという自己中心性が抜けきっていない子どもにとって、友達と仲よくすることや助け合うことの大切さに気付かせることは、将来良好な人間関係を築く素地をはぐくむ上で重要であると思われる。

そこで、友達が困っているときにはその心情を思い、手をさしのべて励まし合い助け合いながらより友情を深めることができる子どもを育てたいと考え、本主題を設定した。

〈子どもの実態〉

幼稚園からそっくりもち上がってきたために、友人関係には変化がない。争いを好まず、決められたことはきちんとしようという性格の子どもが多いため、一見誰とでも仲がよさそうに見える。保育所から一緒に過ごしているので、互いの性格や気性についても1年生なりに感じ取っているようではあるが、まだまだ相手を理解しようとする気持ちには至っていない。そのため、自分に都合のよい利害関係を友達関係とと思っている様子もうかがえる。また、本校では「友達のよいところみつつけ運動」を行っているが、どんどん自分から友達のよさを認められるようになってきた子どももいれば、教師が一つ一つ指摘をしないと、相手から受けた親切や優しさに気付かないままに過ごしている子どももいる。

自分の考えや行動に同調しようとする子だけと仲よくするのではなく、どんな相手にでもよさを見つけ、思いやりをもって接し、認め合い助け合っていくことで友情を深め合う子どもを育てたい。

〈資料について〉

森の動物たちが仲よく遊んでいるところに、今日もくまさんが意地悪をしようとやってくる。木を振り回してみんなのじゃまをしている最中に、誤ってその木を自分の足の上に落としてしまう。痛がるくまさんを見て、「意地悪をした罰が当たった。」と考える動物もいるが、その後力を合わせて助けようとする。くまさんが、そんな動物たちの優しさに触れて初めて「一人では生きていけないんだ。森の仲間どうし助け合って、みんなと仲よくしていこう。」という気持ちをもてたことに気付かせたい。

導入場面の相撲をして遊んでいるときより、最終場面のくまさんが仲間に加わって手を取り合っているときの方が、みんな明るく楽しそうだと感じ取らせ、自分も困っている友達を見過ごさないで大切にしていこうとする意欲をもたせたい。

資料名「くまさんの なみだ」(日本標準1年)

(3) ねらい

友達と仲よくし、友達を大切にしようとする心情を育てる。

(4) 展 開

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1 楽しく遊んだり学習したりしている写真を見て、話し合う。	○みんないい顔をしています、どんな気持ちでしたか。 ・おもしろかった。 ・楽しかった。	・友達と楽しそうに活動している写真を提示し、学習に興味をもたせる。
2 「くまさんのなみだ」の読み聞かせをし、くまの気持ちの変化について話し合う。 ・すもうをとって遊んでいる動物たちのじゃまをしているとき ・足の上に木を落として森の動物たちに助けてもらったとき ・森の動物たちと仲良く手をつないでいるとき	○これからお話をします。くまさんになつつもりで聞いてね。 ○みんなに意地悪をしているときのくまさんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・どうだ、ほくは強いんだぞ。 ・ひとりはずまらないなあ。 ○森の動物たちに助けてもらったとき、くまさんはどんな気持ちになったでしょう。 ・罰が当たったのかなあ。 ・悪かったよ。ごめんなさい。 ・助けてくれてありがとう。 ・もう意地悪しないよ。 ○仲よくなったくまさんと動物たちは、どんなお話をしているのでしょうか。 ・これからは一緒に遊ぼうね。 ・みんながいてくれてよかったなあ。友達っていいなあ。	・場面絵を見せながら読み聞かせをし、3つの場面に分けて話し合いをさせる。 ・わざとみんなのじゃまをするくまの気持ちをとらえさせる。 ・威張っているくまの態度を不快に思う小さな動物たちの気持ちにも触れる。 ・意地悪されたにもかかわらずくまを助けようと集まってくる動物たちの温かさに触れ、今までの行いを反省するくまの気持ちを、再現劇を用いて共感的に考えさせる。 ・場面絵を印象的に提示し、くまや動物たちの表情をとらえさせることで、両者の心のつながりを感じさせる。
3 友達と自分との関わりについて、生活を振り返りながら考える。	○学級の友達と一緒にいて、よかったと思ったことはありませんか。	・自分の生活を振り返り、自分のよさや今後の課題に気付くようにする。
4 教師の話聞く。	○先生が「友達っていいなあ」と思ったときのことを話します。	・友達と仲よく助け合って生活しようとする気持ちが高まるようにする。

(5) 評価の観点

- ・くまの心の変化を、共感的にとらえることができたか。
- ・友達の大切さが分かり、友達と仲よくしようとする意欲がもてたか。